

ありがとうおかげさまで…

今年度の取り組みから

～水と土の会の方々におききました～

新しくなった交流掲示看板に子ども達からの「お米が美味しかった」「水田の体験をさせてくれてありがとう」と書かれたメッセージを見つけ、今年も精一杯頑張らせてもらおうと思いました。吉野川分水が届くまで、田んぼに水を引いてくることに苦労した経験があるからこそ、手塩にかけて育てたお米を美味しく食べていただくことは、生産者として何よりの喜びです。交流掲示看板を通して地域の皆さんにも子どもたちの感謝の気持ちが届いていると思います。水のつながりプロジェクトを通して、水源地域から届ききれいな水と、大和平野の元気な土の力を合わせて豊かな実りを育む喜びを子ども達に伝えていきたいと思っています。

今年は小学校の子どもたちへ直接おかげ米を手渡すことができ、お互いに「ありがとう、皆さんのおかげで」のおもいを感じることでできる機会となりました。大事そうにおかげ米の袋を抱きかかえる子どもたちの姿に、今年も一生懸命稲の世話をしてきた苦勞が報われた気持ちになりました。



鴨公小学校では稲が力強く育っている様子を描いた絵を見せてもらい、川上小学校では、水源地域のきれいな水が田んぼに届くからこそ美味しいお米を作り続けられる感謝の気持ちを子ども達に伝えました。子ども達からは、鴨公小学校と合作で書いてくれた感謝状をいただき、これからも気持ちを伝え合うつながりを続けていきたいと思いました。

お米が届いた教室から

川上村立川上小学校

前 浩輔 校長

日頃から意識はしているものの、私たちが流している水は大和平野でどのように使われ、人々の役に立っているかを実感する機会はそう多くありません。5年生の交流では、稲刈り体験後のお茶会で、間伐材の割りばしを使って、さなぶり餅をいただいたことで、檀原市の方々が行っている地域の伝統を感じ、実物を通して第一次産業のつながりを知ることができました。そして、何より食を通して子ども同士が交流を深めることができました。また、「おかげ米贈呈式」では水土里の会の方々から、「川上村の皆さんのおかげ」という感謝の言葉をいただき、地域の役割を実感することもできました。

4年生の交流では、鴨公小学校の子どもたちが白屋のことを調べ、本校の子どもたちに伝えてくれたことに変え感動いたしました。5年生でまた会える!と、子どもたちは再会を楽しみにしています。水のつながりプロジェクトを通して、お互いの地域を知るだけでなく、人と人の繋がりを実感できた素晴らしい機会となりました。

収穫されたお米が檀原市水土里の会の皆様から体験校へと届けられました。

檀原市立鴨公小学校

足立 晶子 校長

本校は初めてこのプロジェクトに参加させていただきました。コロナ禍で様々な活動が制限されていた数年の間に、奈良県でもGIGAスクール構想が進みました。遠く離れた学校とも電子黒板の大きな画面越しに直接コミュニケーションが取れるようになったので、交流行事の日以外でも川上小学校の子どもたちと教室から交流ができました。しかし田植えや稲刈りの感触や大変さ、届けていただいたお米で作って食べたおにぎりの味、川上村に行って触れた美しい自然、歩いてみて分かったダム大きさ、かつてあった白屋の人々の生活の地に立つことで、今は自分たちの地域で生活されている方々に思いを寄せる事等、実際の体験が子どもたちに教えてくれた事は、画面越しでは決して得られないものでした。

4年生はすでに夏の田植えと川上村の友達に再会できる事をとても楽しみにしています。

水がつながり地域や人との出会いがさらに広がる事を期待しています。

事務局後記

参加校が主体的になって取り組みを行ってくださったおかげで、体験後のお茶会、ダム新聞を活用した案内、檀原の子どもたちが調べた白屋の発表など、多くの交流の機会が生まれ、地域のつながりを強く感じることができました。

あわせて、水土里の会の方々へ学校へおかげ米を届けていただいたことも、地域とのつながりを強くするきっかけとなりました。今年も水のつながりプロジェクトにご協力いただきました皆様方感謝を申し上げます。

水のつながりは人のつながり



令和5年度(2023年度) 水のつながりプロジェクト実施報告

主催：大和平野土地改良区・奈良県川上村 協力：奈良県農村振興課 水土里の会(檀原市田中町)

地域をつなぐプロジェクト



紀伊半島大水害が起きた平成23年、安定的に吉野川の豊かな水が吉野川分水をとおして届く おかげでおいしい お米 が収穫できることへの感謝の気持ちを伝えるため、大和平野土地改良区の組合員のみなさんから、吉野川分水の水源地域へ「おかげ米」が贈呈され、川上村にも9tのお米が届きました。『川上宣言』を掲げ、人が暮らし続けることにより森から生まれる水を守る「水源地の村」づくりに取り組んでいる川上村にとって、「下流にはいつもきれいな水を流します」という川上村のおもいが届いたことを大変うれしく思うとともに、水を育む水源地域と、水の恵みで実りを育む地域の営みのつながりを実感できる機会になりました。翌年、つながった双方のおもいを継承できるよう、川上村と大和平野土地改良区が共同で「水のつながりプロジェクト」を立ち上げました。それぞれの地域の小学校どうしの交流を軸に、お互いの地域のつながりを知る活動は、地域の方々の支えによって今年12年目を迎えることができました。

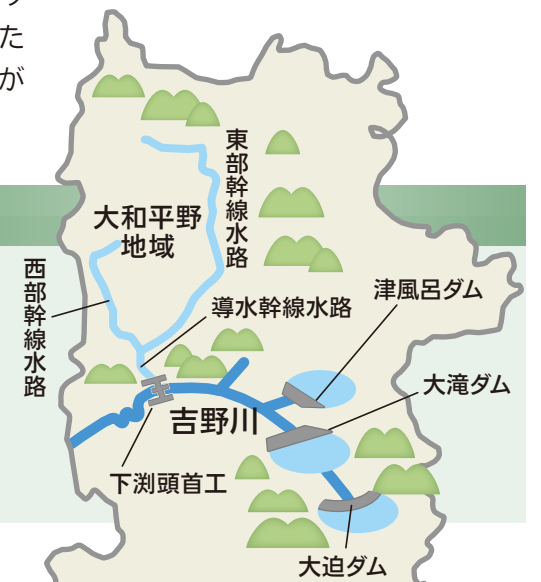
地域とつながる「交流掲示看板」



この活動を地域の人にも伝えたいとの想いから、水源地交流水田の看板を子供たちの声が届けられる「交流掲示看板」として昨年リニューアルしました。交流掲示看板では田植え・稲刈り体験の感想はもちろん、田植えの準備から、おいしいお米ができるまでのお世話をしてくださった水土里の会の方々への感謝のメッセージ、そして、それぞれの地域のつながりによりできた「おかげ米」を食べた児童達からの「おいしかった!」という声をお届けしていますので、ぜひ機会があればご覧ください。

吉野川分水(よしのがわぶんすい)

大和平野における水不足の解消を目的に実施されたもので、大迫ダム・津風呂ダム・下淵頭首工・平野内水路等の施設から構成されます。これらの施設により吉野川から大和平野に農業用水として導水されており、大和平野の農業水利の安定化に役立っています。また水道用水としても利用されており、これらの水が「吉野川分水」と呼ばれています。大和平野土地改良区では、導水幹線水路、東西幹線水路等の水路及び分水工の管理を行っています。



令和5年度
(2023年度)

水のつながりプロジェクト

今年度も、大和平野と水源地の子どもたちがそれぞれの地域を訪ねて体験や見学を行い、交流しました。
お互いに水でのつながりを実感し、感謝の気持ちをもって地域について学ぶ機会となりました。

参加いただいた学校

川上村立川上小学校

源流体験……………4年生 4人
田植え・稲刈り体験……5年生 6人



檀原市立鴨公小学校

源流体験……………4年生 29人
田植え・稲刈り体験……5年生 38人

体験指導：水土里の会（檀原市田中町）の農家のみなさま

田植え体験

6/16

鴨公小学校と川上小学校の児童が水土里の会の方々の指導を受けて、水源地交流水田に稲の苗を植えました。慣れない田んぼの土に悪戦苦闘しながらも、丈夫に育つよう丁寧に植え付けしていきました。泥だらけになった手足を水田の近くを流れる吉野川分水の用水路で洗った後、お茶会を開いて田植えの労をねぎらい合いました。



稲刈り体験

10/16

夏の猛暑や台風7号の紀伊半島上陸を乗り越え、児童たちが稲刈りをするのができたのも、水土里の会の方々が稲のお世話をしてくださったおかげです。秋晴れの空のもと、太く丈夫に育った稲を刈り取って稲架掛けをした後は、地域の名物でお茶会をしました。川上小学校が用意した川上の水で乾杯し、鴨公小学校が用意したさなぶり餅に舌鼓を打ちました。



おかげ米贈呈

12/5

水土里の会の方々がおかげ米を直接学校へ届けてくださった際、「皆さんが田植え・稲刈りをしてくれたおかげ、水源地からきれいな水が届くおかげ、大和平野の元気な土があるおかげ。地域と人の『おかげさま』が合わさったおかげ米を届けに来ました。」と述べられました。児童たちがおかげ米を食べた時、育ててくれた方々のおかげを感じることができると思います。



4月

・種まき ・畦塗り
・田起こし

5月

・入水 ・代掻き
・田植え

6月

・草刈り ・害虫対策
・水管理

7月

・施肥 ・中干

8月

・害虫対策 ・水管理

9月

・台風対策 ・落水

10月

・稲刈り ・乾燥
・脱穀

11月

・精米 ・出荷

吉野川分水の管理

吉野川分水事業は、大和平野の農業や産業が発展することを目的に進められたものです。大迫ダム・津風呂ダム・下淵頭首工・水路などの施設から水が運ばれ、吉野川の水は大和平野に届けられています。この事業によって、農業用水が供給されることで日照りがあっても、大和平野の農業が安定的に行えます。また県内の水道水としても利用されています。

吉野川分水は水のつながりを通じて、人のつながりへと発展し、大和平野の暮らしに欠かすことのできない大切な事業となっています。



源流トレッキング

8/3

吉野川分水の受益地より一般公募で17名の方にご参加いただきました。大迫ダムの堤体を歩き、ダム湖に貯えられた水を体感していただいた後、普段は立ち入ることのできないキャットウォークを歩くことでダムの大きさを実感していただきました。

水源地の森では爽やかな森の空気と澄み切った源流の水に触れることで緑のダムを体感していただきました。



源流体験

11/24

大迫ダムの見学では、自分たちが書いた「大迫ダム新聞」を使って川上小学校の児童たちが鴨公小学校の児童たちを案内し、白屋でのオリエンテーリングでは、鴨公小学校の児童たちが学校の近くにある白屋八幡神社をきっかけに調べたことを、川上小学校の児童たちに発表してくれるなど、お互いの地域のつながりを伝え合う良い機会になりました。

